



# 「たまがわ LOOP」 クルマを愛好する趣味人の会

@玉川高島屋 S・C

玉川高島屋 S・C のコミュニティ拠点としてさまざまな活動している「たまがわ LOOP」というアクティビティがある。

クルマ好き、集まれ！「クルマを愛好する趣味人の会」なる催しが、5月14日（土）、玉川高島屋上階の会場で行なわれた。いつの間にやら主催者に祭り上げられたイノウエ、本誌編集締切を控えているというのに、うんうん唸りつつ企画を考えた。

というも、じゃあこの日辺りで…とブッキングされたのは数ヶ月前。切羽詰まっていない気楽な時期にすでに決まっっていて、期日が迫って慌てる、といういつものパターンであった。

## ● 一台のクルマが…

第一回目のこん回、まずテーマとし

て採り上げたのは「一台のクルマがこんなにも生活を変えてくれた」。

果たしてどのような方が参加して下さるかも模索状態のなかで、まずは無難というか、本誌読者諸賢なら先刻ご承知というようなことかもしれないが、まずは「趣味の原点」を確認したい、とテーマにしたものだ。

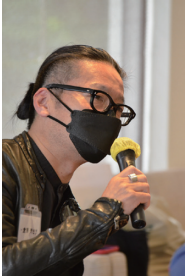
そして、そのテーマに相応しいパネラーとして本誌でもお馴染みの VW 乗り、桑木 敏さんに加わっていただくことにした。

このご時世、通常の半分ということで 15 名の定員という参加者。ありがたいことに、募集締切のずいぶん前に定員に達したという。ふたを開けてみれば、本誌でもお馴染みの方 5 名、初めてお目に掛かる方 10 名。そのうち、フェイスブックその他でお名前は





こちら VW 愛好家軍団、左から池畑さん、伊藤さん、桑木さん、右端が石神さん



UP20S の倉澤さん



GR スーブラの山崎利行さん



左はご主人に代わって参加の鈴木さん、上と右は本誌でお馴染みの贄田さん、阪本さん



上：佐藤さん、右：辻野さん、左：伊藤さん



メルセデス乗りの左から 宮下さん、大竹さん、竹内さん

存じ上げているのに、お顔拝見はこの日が初めてという方も3名おられた。

お馴染みの方には「耳にタコ」かもしれないが、趣味はいいもんだ、というところからはじまって、自分を例にとりつつ、趣味はいいもんだから→趣味の効能→鉄道趣味とクルマ趣味（鉄道は自分で所有できないけれど、クルマは自分で所有できるところが大きくちがう）→クルマ趣味とは… その特徴などを基調文として話そう。

そして、本誌は同好の仲間贈るクラブ誌のつもりで編集していること、などを話そう、と思っていたのだが、となりの桑木さんを見た途端、端折ってしまって、

「桑木さんが一台のクルマ、手に入れたのはいつでしたっけ？」

といきなり本題に入ってしまった。

### ● 手に入れた VW で日本漫遊

桑木さんは VW を買って趣味生活に踏み出した。それこそ全国のイベントというイベントを巡り歩き、各地で友人をつくった。イノウエも桑木さんに連れられて、秋田の VW のヌシのような酔屋さんにもお目に掛かれたし、いまや日誌で桑木さんの活躍ぶりを綴ってもらって、一緒に遊んでいる気になっている。

VW というのもミソで、これがフェラーリやボルシェを趣味のクルマにして行脚しても一般受けはしまい。実は、この日 VW 乗りが4人も集まってくださっていた。もうひとつ偶然にも、W123、W124 メルセデスのオーナーが集まっていらっしゃる。池畑 浩さんのように VW と W123 の2台持ちのオーナーもいたりして。

あ、この日は参加者のみなさんに事前アンケートをいただき、写真とともにショート・インタビューをさせていただいた。つまり、お手本の桑木さんにつづいて、みなさんの趣味人振りをそれぞれ紹介していこう、という趣向にしたのだ。

### ● みなさんそれぞれ趣味の…

申込んでいただいた順に、それぞれの方のクルマ趣味、そのクルマの話、クルマ以外の趣味など話題を選んでお話をします。すでに本誌でご紹介させていただいた方もおられるし、先述のようにこの日が初対面の方もいる。

まあ、こうした試み時代が初めてのことで、手探りの部分を含めてすべてがアドリブ。なかなか臨機応変、緊張の時間がつづいた。



フィアット 850 クーペの賛田勇人さんは、手づくりの小物を持参。左、倉澤さんのパブリカ・コンヴァーティブル。エンジンルーム内もすこぶる綺麗な状態。



上は注目の2台、辻野さんの「アルファ・コルサ」のアルファ GTVと佐藤さんのRS200。下はメルセデスの3台。左から大竹永晃さんの E320T、宮下和秀さん、竹内秀行さんの 500E が並ぶ。





申込みいただいた鈴木孝宣さんが仕事の都合で奥様が代わりに出席くださった。本当ならVW乗りの伊藤美穂さんが「紅一点」のところだった。

で、鈴木さんはご主人の趣味に理解あるどころか、ご自身でもヴァンプラにお乗りだと仰る。

この日、初めてお目に掛かるなかで解説が必要なほどのクルマが2台。ひとつは辻野寛美さんのアルファ GTV と佐藤一毅さんのフォード RS200。アルファは「グループN プロトタイプ」と呼ばれる、アルファ・コルセのプロトタイプ。「アパルト美術館」にあったものを譲受したワンオフ。片やフォード RS200 はれっきとした「グループB」カー。ともに、イノウエがいうところの「ひとり博物館」、だいじにしてもらわねばならない存在だ。

パブリカ・コンヴァーティブルの倉澤 斉さんとはなん度かイベント会場でお目に掛かるものの、彼はクラブの中心人物だったりして、お話しする

のは久しぶり。30年乗りつづける愛車はじつに手入れも行き届いている。

#### ● 若き趣味人と 500E

この日一番若い参加者、望月健太郎さんはクルマのイラストやペーパークラフトを趣味にしている。なかなか面白い作品持参で、クルマ話にひと息の感。

メルセデスの御三方はお仲間に参加くださった。基本 W124 のクラブをしておられるそうだが、この日参加のうち2台が E500 というからまあ豪勢なことだ。

本誌でもお馴染みの阪本昇次さんは愛用のホンダ「エス」でもミニ・ヴァンでもなく湘南新宿ライン E231 系電車で駆けつけてくれた。

それぞれのクルマ趣味を披露いただき和やかな雰囲気が進んだ。



#### ● 「松本記念音楽迎賓館」で

「たまがわ LOOP」会場での予定は2時間。あっという間に時間は過ぎ、トーク終了後は有志が近在の「松本記念音楽迎賓館」にクルマで集合することになった。日頃からクルマが集合できる場所に事欠く地域。

雰囲気よさ、クルマが10台ほどは置ける、ということで音楽迎賓館にお願いをした次第。やはりクルマが並ぶと、また気分が盛り上がってくるものだ。閑静な住宅街ゆえ、くれぐれもお静かに…といわれていたのだが、それでもあちこちに歓談の輪ができて話は尽きない。

予定を過ぎてもなかなか散会そうもない。やはり好きなものに接している時間、同好の士と語り合う時間の楽しさ、というものだろうか。

ありがたいことに、今回の盛会を受けてぜひ次回も、さらには定期開催を、とお誘いをいただいた。展開をしていきたい企画もいくつかある。p081 をご覧いただき是非ご参加を。